

6月～7月の支出

36,355円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代（月刊武松印刷代）	6,678円
交通費（駐車場、燃料代、高速代）	15,904円
会場費差額	1,000円
通信費（携帯電話）	12,773円
支出計 04/6/1～04/8/2	36,355円
寄付 ヤマオカさん、ユカワさん	16,000円

市政を考える

月刊武松

発行日
04/8/2

第55号

10500部発行

たけまつ ただし

頒布責任者：武松 忠
武松政策研究会

人口減少時代突入!?

小田原市の総人口は、17万人を割る！（2030年）

■2030年には、17万人を割る！

現在、小田原市の総合計画「ビジョン21 おだわら」の後期基本計画を策定中です。

この総合計画の基礎条件である人口見通しは、基本構想で2010年度23万人と想定しています。

しかし、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、19万5551人となっており、3.4万人もの開きがあります。また将来的には25万人とした人口も、推計では、2030年16万9685人と差は、さらに拡大します。

■深刻な15～64歳人口減

人口の減少は、税収の減少と直結します。特に深刻なのは、15～64歳の減少で、表1に示すとおり2000年から2030年で、3万7430人、割合では27%も減少してしまいます。

■65歳以上人口増加

65歳以上人口は、2015年に4万9351人、割合で47%増となり以降横ばいとなるものの、65歳以上人口1人当たりの15-64歳人口は、4.10人（2000年）、2.37人（2015年）、1.99人（2030年）となります。

2000年は高齢者1人を、4.1人の生産年齢で支えていましたが、2015年には2.37人で支えなければなりません。

■激変の10年をどう乗り切るか

小田原市にとってこれからの10年は、急激に変わる人口構成と減収に備えて行かなければならない非常に重要な時期です。そのためには、

- ①福祉関係経費や扶助費を見直す。
- ②介護予防や生活習慣病予防など、予防に努力をした人が恩恵を受けられるような仕組み作り。
- ③15～64歳人口が、増加する都市計画（市街化区域の拡大、中心市街地の人口増）や企業誘致策の推進。などを強力に進めなければなりません。

図1 小田原市の人口推計
(国立社会保障・人口問題研究所)

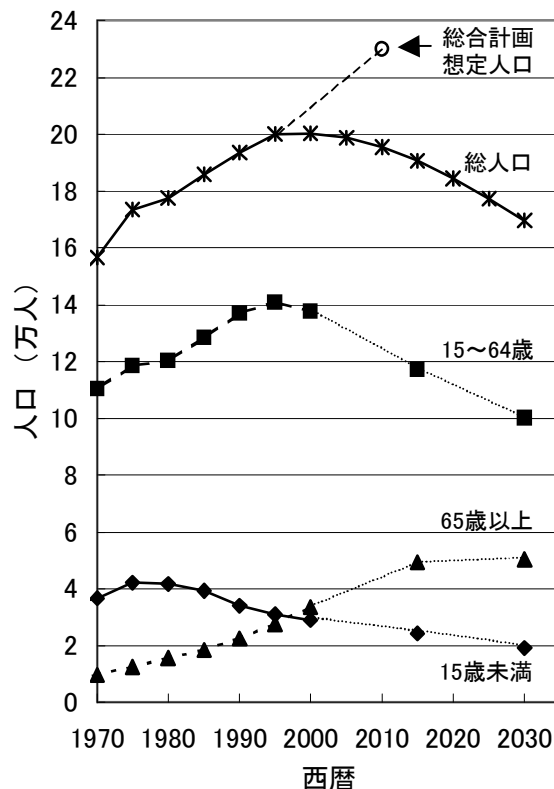


表1 小田原市の人口推計(年齢区分別)

区分 \ 西暦	2000年 (人)	2015年 (人)	2030年 (人)
総人口	20万0173	18万4421	16万9685
15歳未満	2万8984	2万4170	1万9157
15-64歳 A	13万7654	11万7088	10万0224
65歳以上 B	3万3535	4万9351	5万0304
A/B	4.10	2.37	1.99

この百年で最高の潮位

■夏から秋にかけて高潮と異常潮位に注意

夏から秋にかけて、日本各地の潮位は一年のうちで最も高くなります。この時期の大潮（新月や満月の前後）の満潮時に、ほとんどの地点で年間の最高潮位となります。

また、1980年代の半ば以降、日本沿岸の海面水位は上昇傾向にあり、平均的な海面水位はこの100年間で最も高い状況にあります。

このような潮位が高いところに、台風による高潮や異常潮位による潮位の上昇が重なると、沿岸の低地では浸水などの被害が生ずるおそれがあります。

今年は4月以降四国から近畿地方にかけての沿岸で潮位の高い状態が続いています。また、夏以降には黒潮の蛇行は東海沖に進むことが予想されており、そ

の場合、東海から関東地方にかけての沿岸で異常潮位が発生する可能性があります。

満月	新月
7月2日	7月17日
8月1日	8月16日
8月30日	9月14日
9月28日	10月14日
10月28日	11月12日
11月27日	

今年の7～11月の大潮期にあたる満月および新月の日は左のとおりです。

この日を中心に前後数日間は満潮時の潮位が特に高くなるので注意が必要です。

小田原を襲った明治大海嘯（高潮

災害：死者不明60人）から102年。この所の異常気象も気になります。改めて私たち自身が災害に備えなければなりません。気象庁報道発表資料より抜粋

The Voice 今までに頂いたご意見から

防潮扉は、どこが管理しているのか？ 60代 男性

このところの異常気象で、7月台風が接近したりしています。小八幡から本町の西湘バイパスの下に防潮扉が設置してありますが、台風等接近の際、誰が閉めて、誰が開けるのか？ また、台風通過後は、数日閉じたままの場合もありますが、管理はどうなっているのか伺います。

小田原には、23の防潮扉があります。防潮扉の開閉は、消防署で行います。分担は、東分署（4ヶ所）、本署（8ヶ所）、中央分署（6ヶ所）、西分署（5ヶ所）を一斉に閉じますが、次のように手順が決まっています。

■閉鎖する条件

- ①高潮、暴風雨等の災害により災害が発生すると予想されたとき。
- ②地震により津波注意報が発せられたとき。 ③津波警報及び大津波警報が発せられたとき。
- ④地震により津波の発生が予想されたとき。
- ⑤前各号の他、消防長及び消防署長が必要と認めたとき。

■退避の確認 ・ 防潮扉の閉鎖は、海辺の海辺にある者の退避を確認した後に行う。

■閉鎖状況の確認 ・ 防潮扉閉鎖後は、定期的に巡回し、閉鎖状況を確認する。

防潮扉は、ただ閉鎖するだけではなく、海岸にいる人の退避の確認をしなければなりません。ホームレスにも声をかけ退避をさせてからでないと扉を閉めることができないのです。そのため全部の扉を閉めるのに半日以上かかってしまいます。 また開けるのも消防署が行いますが、海岸の管理は、東半分が県土木、県西部漁港となっており、扉の外側に砂利が堆積した場合は、その撤去をそれぞれ、協議し実施主体を決めます。堆積した砂利は、重機等が必要になるため外部委託等で日数がかかります。

武松政策研究会 月例勉強会のお知らせ

日 時：8/28（土）18時～20時 場 所：市民会館6階 第1多目的室

テーマ：「競輪・競艇について」

競輪の将来や競艇の場外車券売場について、多面的にディスカッションしたいと思います。

参加費：100円 終了後、実費で懇親会を行います。



ホームページでは、日刊武松（日記）や、月刊武松のバックナンバー、一般質問の会議録も見ることができます。YAHOO!で「武松忠」または、「たけまつただし」と入力すると検索できます。

URL <http://www6.airnet.ne.jp/takematu/> i-mode <http://www6.airnet.ne.jp/takematu/i.htm>

寄付は、ジャパンネットバンク 本店 普通口座 7941377 タケマツタダシ

さがみ信用金庫 大井町支店出張所 普通口座 0051228 武松政策研究会 武松忠 まで

月刊武松は本人が配布しているため、行き届かないところがありますが、読み終わりましたら知合いの方にお渡しいただくと幸いです。また、eメールでも送付していますので連絡下さい。